

# 「千一問」におけるコーランの引用

坪井 祐司

本論文は、『カラム』のコラム「千一問」におけるコーランの引用について紹介する試論である。

「千一問」は、『カラム』読者からの質問に対して、アブー・アル＝モフタルをはじめとした編集部が回答を行う一問一答形式のコラムである。ムスリム読者の日常におけるさまざまな疑問に対して、イスラムの立場から回答が与えられる。そこでしばしば典拠として用いられるのがコーランおよびハディースである。コーランのアラビア語原典が引用され、そのマレー語訳とともに解釈が述べられている。

このコーランの引用は、回答者のイスラムに関する知識のあり方を反映したものと見える。どのような質問に対してコーランの引用がなされるのか。そして、引用されるコーランの章句に何らかの傾向性や偏りがみられるのか。コラムの性質上回答者個人を特定することは困難であるとはいえ、こうした点を整理することで、『カラム』の運営主体となったシンガポールのイスラム知識人の思想的背景の一端を明らかにすることができよう。

そこで本論では、「千一問」からコーランが引用されている箇所を抜き出し、その全体像を整理する。そして、引用がなされている質問について、特徴的なテーマごとにその具体例について紹介する。なお、『コーラン』の章句の訳語については、『カラム』本文のマレー語訳を日本語に訳したものを用いる。章の日本語訳については、井筒俊彦訳『コーラン』(岩波文庫)によっている。

## 1. 「千一問」におけるコーランの引用について概要

『カラム』共同研究プロジェクトの一環として「千一問」の日本語訳がなされてきており、ディスカッションペーパー『カラムの時代』のⅦ号からⅪ号において、『カラム』第1号から第106号までに掲載された計545問が紹介されている。そのなかで、コーランの引用件数は、のべ124件となっている。同じ質問・

回答の中で複数の箇所が引用されているケースもあるため、コーランが引用された質問の数は68問となる。これは全体の質問数(545問)に対して12.5%、およそ8問に1問にあたる。

引用されたコーランの章として、件数が多いのは、第4章「女」(15件)、第3章「イムラーン一家」(12件)、第2章「牝牛」(11件)、第24章「光り」(9件)、第5章「食卓」(7件)などとなっている。これは、異なる質問で同じ章句が引用されているケースは別個にカウントしてある。同じ章句が別の質問で引用されるケースもある。もっとも頻繁に引用されたのは女性が隠すべき部分について述べた第24章「光り」の第31節(5回)、次いでザカートを受け取る資格のある人々について述べた第9章「改悛」の第60節(3回)である(それぞれ本論第4節、第3節で内容を紹介している)。

一方で、すべての質問がコーランをもとに回答されているわけではない。それでは、コーランが引用される質問とはどのような話題なのであろうか。本論では、コーランが引用された質問を5つのテーマに分類し、その内容を紹介したい。そのテーマとは、①イスラム教の世界観に関するもの、②イスラム教の宗教実践に関するもの、③イスラム教の法規則に関するもの、④自然に関するもの、⑤政治や歴史に関するものである。

## 2. イスラム教の世界観

第一の質問群は、イスラム教の世界観に関するものである。神による天地創造や天使の存在など、根源的な世界観に関する質問はしばしばなされた。そうした質問に対して、コーランの章句が引用される場合がみられたのである。

神や天国と地獄といった抽象的な概念をめぐる質問の具体例を紹介したい。以下の質問は地獄に関するものである。なお、引用に関して、質問に付された番号はディスカッションペーパーにおける通し番号である。

**Q.380**(一部省略)

この投書と共に、『アルフダー』と題するタイ語のイスラム系雑誌の翻訳記事と一緒に同封します。貴殿の雑誌『カラム』はタイ南部の読者が多いので、この記事に関して分析をして頂けたらと思います。私は、『アルフダー』を過信する友人と口論になりました。私は不信仰者が地獄から出てくることはないと言ったのですが、私の友人は、不信仰者といえども地獄に永遠にとどまることはないと言主張する雑誌『アルフダー』の見解に同意しています……。

**A.380**(一部省略)

最も高貴なるコーランの中には、不信仰者は永遠に地獄にとどまるとする節が30以上ある。例えば、「牝牛」の章第39節は次の通りである。「信仰に背き、我らのしるしを嘘と決めつける者どもは、地獄の住人となり、そこに永遠にとどまる」。これが啓典コーランの中で、不信仰者は地獄の懲罰を受け、そこに永遠にとどまると説明した最初の節である……。

質問者が言及していた、コーラン「家畜」の章第128節に記されている「彼らは永遠にそこにとどまる。ただし、神の御心次第では別である」という神の啓示に関する解説は以下の通りである。地獄の住人である不信仰者はそこに永遠にとどまるが、それは以下の時間を除く。すなわち、「アルサイール」(繰り返される業火)の懲罰から、「アルザムハリール」の懲罰(身体を凍らせるほど凍てついた地獄の刑罰)へと彼らを移動させる間である。質問にあったコーラン「フード」の章第107節に関する解釈も同様である。神を信仰しない不信仰者の集団は、地獄で痛烈な懲罰を受けた後、そこから出されるとする明確な文言はない。

[*Qalam* 1954. 7: 6]

ここでは、他のマレー語雑誌とコーラン解釈に関する論争を行う形となっており、質問と回答で数多くの章句が引用されている。

続いては、現世と来世にかかわる質問である。

**Q.527**

我々はどのようにして現世と来世で幸せになれる人々を見分ける、あるいは識別することができるのでしょうか。それは多くの学問あるいは知識、または財産があるという理由からでしょうか。

**A.527**(一部省略)

現世と来世で幸せになれる人物を見分ける方法の一つは、その人物が全ての努力、行い、そして勤めにおいて十分に誠実であるかどうかを見ることである。その

人物が為す全ての行いは、単に誠実さだけを以て為すのでは不十分であり、まずは知識を以て為さなければならない。なぜなら、知識を伴わない行いは当然無駄になるからだ。もし知識がなかったとしたら、その人物は礼拝を誠実に行うことができるだろうか。その答えは勿論否である。なぜなら、礼拝が習得した知識を以てはじめてなされるように、為される全ての行いは知識を伴わなければならないからだ。そしてその知識は、誠実に行うという方法だけでは成果をもたらさず、敬虔な行いが必要である。敬虔な行いをし、そしてアッラーの御ために自らの宗教に対し誠意を尽くす者はコーラン「光り」の章第22節の中に記されているアッラーの啓示の通り、幸福を手にする。それは以下の通りである。「そしてアッラーは汝らの内、信じて敬虔な行いをする者に次のように約束し給うた。彼らの先代の人々を地上の後継者とし給うたように、彼(アッラー)は彼らを地上の後継者とし給うことを」。

コーラン「女」の章第146節は次の通りである。「改悛し、自らを改め、アッラーにすがり、そしてアッラーの御ために自らの宗教に対し誠意を尽くす者は別で、彼らはいつも信者と共にある。やがてアッラーは信者に大きな報酬を与え給うであろう」。

[*Qalam* 1958.9: 41]

この例では、神への信仰によって来世が保障されることがコーランに基づき論じられている。このようなイスラム教の世界観を問う質問は、コーランが引用される典型的なケースといえよう。

### 3. イスラム教の信仰の実践に関して

次に挙げられるのは、イスラム教の信仰実践についての質問への回答である。礼拝や喜捨など、五行に代表されるムスリムに義務付けられた信仰行為について、その典拠として対応する章句が引用されるケースである。

最初に紹介するのは、五行の一つである礼拝に関する質問である。

**Q.321**

礼拝の始めから終わりまで、真剣に礼拝を行わない人は法的にはどうなりますか。また、思索や思考が逸脱して行ったり来たりしないよう、心を制御するにはどうしたらいいですか。

### A.321(一部省略)

礼拝を真剣に行わないことは禁止であり、その実践は全く無意味である。礼拝中に意識が逸れて落ち着かない状況に陥った者は、来世で拷問による激しい苦痛を受けることになる。至高なるアッラーはコーラン「慈善」章の中で以下のように仰せになっている。

「禍いあれ。礼拝をしながらも、礼拝に身が入らない者たちは」(第4～5節) [Qalam 1953.5: 40]。

同じく五行の一つである喜捨(ザカート)も、「千一問」でよくとりあげられたトピックであった。たとえば以下のようなものである。

### Q.331(一部省略)

カディヤ村長、あるいはウラマーらがザカート・フィトラを受け取ることは許されますか。

### A.331(一部省略)

フィトラの受け取り手については、コーラン「改悛」の章第60節に記されているように、8つのグループに分類されている。

「まことにザカートは、以下のためのものに他ならない。1)貧者、2)困窮者、3)ザカートの徴収者(アミル)、4)心を惹き付けられた人(改宗者)、5)奴隷の解放のための資金、6)債務者、7)アッラーの道のための資金、8)困窮した旅行者、である。これらはアッラーの定め給うた義務である」

[Qalam 1953.6: 47]。

先に触れたように、ザカートを受け取ることができると人びとについて記した上記のコーランの章句は、他のザカートに関する質問も含めて3回引用されている。この質問におけるザカート・フィトラとは、ラマダンの時に徴収する義務的な喜捨である。年に一度のラマダンはザカート徴収の時期でもあり、定期的に関心が高まったのである。

イバーダートといわれるこれらの信仰行為はコーランを典拠としており、その解釈はイスラム学の基礎的なあり方といえよう。

## 4. イスラム教の法制度に関して

次に紹介するのは、イスラム教の法規則についての質問である。ムスリムの日常生活における法解釈が問われたとき、それに対応する章句が引用されるケースである。結婚・離婚など、男女関係にかかわる

ものが多い。

まず、女性の服装や肌の露出に関する質問を2問とりあげたい。

### Q.28

出産の際、女性が目の前で裸になった状態でドゥクン[呪術医]あるいは近親者でない男性の医師にお赤ちゃんを取り上げてもらうと法的にはどうなりますか。

### A.28(一部省略)

回答する前に、ここではコーランの「光り」の章の中の一節について説明したい。この節の主旨は次の通りである。すなわち、女性は近親者でない男性に視線を向けてはならない。そして、彼女たちは名誉を守り、また通常外から見える部分、つまり顔と手首までの両手を除いては自分の身体を見せてはならない。以上はコーランの解釈にあたる学者の解釈であるが、その節の内容は次の通りである。「イスラム教徒の女性に視線を下げるよう伝えなさい。また名誉を守り、外から明らかに見える部分を除いては身体を見られないようにしなさい」。……

女性のアウラは他の男性に見せてはならないだけでなく、女性同士でも見せ合ってはならないのである。同様に男性同士も禁止されている。このような禁止事項はやむを得ない場合を例外としている。なぜなら、アッラーは次のようなお告げをされているからだ。「やむを得ない如何なる者、故意に望むわけではなく、または境界を越えなければ彼らに罪はない」。

[Qalam 1950.12: 10]

### Q.186

芝居を上演し、その芝居の料金を徴収したら、法的にはどうなりますか。

### A.186

芝居自体は禁止ではない。禁止なのは、よく芝居の中で見受けられるように、芝居のなかで信仰を持つ者たちがいつも男女で交わり、また女性が男装をし、男性が女装をし、それを大勢の観客に見られることである。……

アッラーは次のような啓示をされている。「男の信者に(女性から)目を伏せて陰部を守るように言ってやりなさい。女の信者にも言ってやりなさい。(男性から)目を伏せて陰部を守り、露出している部分の他は、体を見せてはならないと」。

これに関する文言は他にもいくつかあり、芝居の状

況を見ると次のことが言える。芝居では美しい女性を目にしてしまうことは避けられず、演じている信者たちは近親者ではない。よって、コーランやハディースに明記された禁止事項に抵触することになる。そこから得た金は、反逆によって得た収入、すなわち禁止された行為によって得た収入である。

[*Qalam* 1952.2: 30]

出産や芝居といった全く異なる状況に関する質問であるが、全く同じ章句によって説明がなされている。第1節で触れた通り、この条文は5つの異なる質問で引用されている。上記の2つの質問はいずれも女性が見せてはいけない部分を見せた時の対応であるが、前者ではやむを得ない場合には許されるという例外的な文言が紹介されており、結論は逆になっている。

くわえて、質問に頻繁に取り上げられたテーマが離婚であった。これは、マレー・ムスリムにおける離婚の多さが大きな社会問題になっていたことが背景にある。ここでは2つの例を紹介したい。

#### Q.505(一部省略)

私の知人の一人が、離婚せずに10年以上も妻とともに暮らしてきましたが、最近になり愚かさや怒りに駆られて以下のように宣言して妻と離婚しました。「俺はお前を三回のタラク[夫が妻に行う離婚宣言]を以て離婚する」と一度に宣言したのです。その後二人は共にそれを後悔し、復縁しようとなりました。カディ[イスラム法の裁判官]は、たとえ妻が妊娠していようともその三回によって離婚は成立し、三回を一度に発した場合も成立する、という最終的な説明を行いました。……一度に宣言した回数によってタラクの回数は決まりますか。

#### A.505(一部省略)

この件に関する我々の見解では、我々が調査し指針とした文言から、タラクは一度に三回あるいはそれ以上宣言しても、法的には一回のタラクに過ぎない。なぜなら、そのタラクの方法は次のようにアッラーによって示されているからだ。「離婚は二度まで。その後は丁寧な方法で復縁するか、あるいは良き方法で(三回のタラクを以て) 離縁せよ」。これはコーラン「牝牛」の章第229節の中に記されている。

[*Qalam* 1958.5: 10, 38]

#### Q.356

しばしば我々の社会では、夫の命令に従わない、ある

いは「ヌシュズ」と言われる妻に対して、夫による「手綱なしの拘束」ということが起こっています。すなわち、離婚はされないけれど、一方で扶養もされないということです。大半のカディがこのような夫の行動を認めているようです。これに関して預言者ムハンマドのどのようなハディースがあるか、ご説明下さい。

#### A.356(一部省略)

不忠(不従順、ヌシュズ)な妻に対して夫が取るべき措置について、コーラン「女」の章・第34節の中でアッラーは以下のように仰せになっている。「不忠の恐れのある女たちには忠告し、寝床に放置し(遠ざけ、交わってはならない)、またたたいてもよい。しかし、もし女たちが忠実であるなら、それ以上の手段に走ってはならない。まことにアッラーは高くかつ偉大である」。……

強大で崇高なアッラーはまた、妻が夫から憎まれたり、あるいは粗野な態度をとられたくない場合、最善の道は直ちに和解することであると説明している。「もし妻が夫に憎まれたり忌避されたりするという恐れがあるならば、両者が和解できるよう試みることは許されている。(離婚よりも) 和解がより良い方法だからだ」(コーラン「女」の章第128節)。

夫は妻を扶養することが義務付けられている。その証拠として、至高なるアッラーはコーラン「離縁」の章・第7節の中で次のように仰せになっている。「資金力のある者は、それに応じて妻を扶養し、生活が限られた者は、神がお授けになったものの中から妻を扶養せよ」。…… [ *Qalam* 1953.11: 36 ]

前の質問(Q.505)では、性急な離婚を戒めるかたちでコーランが引用されている。後者(Q.365)は妻の「不従順」に関する質問である。その回答では、妻が夫に服従しなければならないとするコーランの文言と夫は妻を養わなければならないという文言が別の個所からとられており、夫から見た一方的な見方ではなく、夫婦の間の対等性に配慮した回答となっている。いずれも、当時の社会問題となっていた離婚や夫婦間の不和について、コーランを利用して解決策を示そうとしたものといえよう。

## 5. 自然と宗教

これまで紹介した質問は明らかにイスラム教に関する解釈を訪ねるものであったが、「千一問」のなかには一見宗教とは関係性が薄い質問も少なくない。

そうした質問にもコーランを引用してイスラム的な回答がなされるケースがある。

たとえば、以下の2問のような自然現象に関する質問が挙げられる。

### Q.369

太陽と月の食についてコーランの中ではどのように説明されていますか。現代の天文学者が述べていることと異なりますか。

### A.369

強大で崇高な神は聖なるコーランの中で、太陽、月、地球などは全て回転していると明確に説明している。コーランによる説明は、現代における(東西の)天文学者によって正しいと認められている。コーラン「ヤー・スィーン」の章第38節の中で、太陽の運行に関する説明がされている。その啓示は次の通りである。「一定の季節に従い、太陽は定まった場所、すなわち「天宮」(休息所)まで転回する。一方、月に関しては、神は次のように啓示された。「次に月。我々はその運行を特定の休息所(天宮)に従って定めている」(コーラン「ヤー・スィーン」の章第39節)。他の節においても、神は次の通り啓示されている。「太陽と月は計算によって転回している」(コーラン「お情深い御神」の章第5節)。さらに別の節では、アッラーは次のように仰せになっている。「各々は天文学、すなわち軌道に従って(天空を)滑走し回っている」(コーラン「ヤー・スィーン」の章第40節)。上記4つの節において、太陽、月、地球やその他の星など天空に浮かぶ各物体は、アッラーが定め給うた軌道に従って回り続けていると、明瞭に説明されている。 [Qalam 1954.4:36]

### Q.402

科学者の見解によると、雲が雨を降らせるといいます。しかし宗教の教えによると、神の御力により雨が降るといいます。科学者の見解は神の力の存在を否定することを意味します。その場合、我々は科学者の見解を信じるべきでしょうか。もし違うなら、イスラム教を信仰する人々が学校で科学者の見解を教えること法的にどうなりますか。

### A.402

雲は水を含み、それが非常に重くなった時に雨になる、ということもまたアッラーのスナナとなっている。それを理解するためには、当然努力と労力、そしてまた有用性が必要である。したがって、教授する側とされる側が以下の点を覚えてさえいれば、科学を教えることは違反ではない。それは、この全宇宙はアッ

ラーによって支配されているおり、人間は神の創造物として、神が広められたあらゆる神の創造物の神秘を探求するためにただ努力するという、すなわちアッラーの偉大さについて考えることができるよう、この地上におけるあらゆる現象について考える、ということである。これは、以下の啓示の中で神によっても命じられている。「まことに、天地の創造、昼夜の交替、人間に有用なものを運んで海をゆく船、神が天から降らし給うた雨、それによって枯死した大地を甦らせ、その上に広く散らばった様々な動物、吹き行く風、天と地の間に広がる雲。まことにこれらは全て、分別ある人々にとって唯一神アッラーの御力を示すしとなる」(コーラン「牝牛」の章第164節)。「まことに、天と地の創造、昼夜の交替は、分別ある者にとってアッラーの御力のしとなる」(コーラン「イムラーン一家」の章第190節)。 [Qalam 1955.3:34]

これらの回答では、「天文学者」や「科学者」と対比する形でコーランの章句が引用され、その正しさが強調されている。

次に挙げる質問は、人間の創造について問うたものである。

### Q.492

預言者アダム(彼の上に平安あれ)が最初の人間というのは本当ですか。

### A.492(一部省略)

最も高貴なるコーランや栄光あるハディースの中で、預言者アダムは全人類の起源であることが示されている。至高なるアッラーの啓示は以下の通りである。「神は創造し給うた万物を善美なものとなし、そして人間を土から創り始め給うた。次に神はその子孫を卑しい水の精から創り出し給うた」(コーラン「跪拝」の章第7、8節)。この節の中でアッラーは、最初の人間を土から創り給い、次いでその子孫を卑しい水から創り給うたとはっきり仰せになっている。よって、人間は類人猿や猿から生まれたのではない。

コーラン「イムラーン一家」の章第58節の中で、強大で崇高な神はアダムの誕生について次のように仰せになっている。「彼(アッラー)は(アダムを)土から創っておき、『なれ』と言い給うと、彼はそうだったのである」。この節から、預言者アダムは至高なるアッラーによって土から創られたことは明らかであり、ダーウィンが述べているように、動物が少しずつ変化していった猿となり、やがて最初の人間となったので

はない。至高なるアッラーはさらに明確に次のような啓示を下された。「そして、汝の神が天使に仰せになった時(のことを思いなさい)。『まことにわしは一人の人間を陶土、すなわち象った黒泥から創ろうと思う。わしがこれを完成させ、わしの霊を吹き込んだ時、汝らは彼に跪拝せよ』(コーラン「アル・ヒジュル」の章第28、29節)。この聖なる節はどのような方法でアッラーが預言者アダムを創り給うたかが記されている。すなわち、神は陶土と黒泥から人間の姿を創りなされた。その後それに魂が吹き込まれ、そこで完全な状態の預言者アダムが誕生した。[*Qalam* 1957.11: 45]

この質問の背景にあるのは、ダーウィンの進化論である。回答の前半では、ダーウィンの議論とそれに対する批判を紹介したうえでコーランにおける人間の創造についての記述を紹介し、その正しさを強調している。

こうした自然現象や生物に関する質問は、現代的な文脈においては科学の問題であろう。しかし、ここではコーランに基づいた回答がなされている。回答者は、科学的な知見を踏まえつつ、それがコーランのなかに含まれていることを指摘することで、現代科学を宗教へ取り込もうとしているのである。

## 6. 政治と歴史

このほかに、宗教以外に関する質問への回答においてもコーランの引用がなされているケースがある。代表的な例は、政治などの現代社会について、ムハンマドの時代の社会状況を示す章句を引用して意見を述べるケースである。

最初に紹介するのは、政治指導者のあり方についての質問である。『カラム』は政治色の強い雑誌であり、イスラムに基づく政治を模索していた。

### Q.405

我々は今、マラヤ全域で行われる総選挙を目前にしています。この情勢の中、市民の代表として選ばれることを望む指導者が現れました。ゆえに私は、どの指導者に従うべきか、そしてイスラム教はどのような指導者を奨励しているのかを知りたいと思います。コーランやハディースにのみ依拠した説明をして頂けたらと思います。

### A.405(一部省略)

アッラーは次のように忠告されている。「信ずる者た

ちよ！アッラーの言いつけをよく守り、また使徒ならびに汝らの中で権力ある者の言いつけをよく守れ」(コーラン「女」の章第59節)。

この節で明らかなのは、アッラーとその使徒に対して、そしてUli al-Amr(我らの指導者)に対して忠実であるよう命じられているということである。その指導者とは、アッラーとその使徒に対して忠実で、アッラーとその使徒に対して不従順かつ不信仰でない人々のなかから、イスラム教徒の人々によって選ばれ任命され、イスラム教徒の人々の信頼の対象となる人物である。……

アッラーは次のように仰せになった。「アッラーとその使徒、そして礼拝を守り、喜捨を行い、(アッラーの命令に対し)ひれ伏し拝む者(指導者)をおいて、汝らの長(指導者になるべきふさわしい者)は他にはいない」(コーラン「食卓」の章第55節)。

上記の節から明らかなことは、指導者となるべき人物はアッラーとその使徒、そして礼拝を行い、ザカートを支払い、アッラーの命令に忠実な信仰者だということである。イスラム教徒の皮をかぶってはいるが、罪深い行為を行い、酒を飲み、賭け事や姦通をする者ではなく、また礼拝を行うがモスクの外では背信行為を為す者ではない。

アッラーは次のように仰せになった。「信ずる者たちよ！汝らより前に啓典を授けられた者たちの中で、汝らの宗教を笑いものにし、弄ぶ者どもを汝らの指導者にしてはならない。また、不信仰者を指導者(にしてはならない)。もし汝らが真の信仰者ならば、神を畏れなさい」(コーラン「食卓」の章第57節)。

宗教を弄ぶ人々を指導者に対することに対する禁止は正確且つ明確である。またアッラーは、我々の一員ではない者を友人にしてはならないと警告されている。なぜなら、そのようなことは明らかに災難をもたらし、その結果は甚大だからだ。彼らの言葉は甘いだが、その口は邪悪である。これはよく知られていることだが、彼らの胸の内はとりわけ以下のアッラーの啓示の通りである。「信ずる者たちよ！汝らの一員ではない者を、親密な(baṭānah)友と見なしてはならない。彼らは何としても、汝らの上に災難をもたらすことを止めない。彼らは汝らが苦難に遭うことを望んでいる。まことに彼らの口からは憎しみがほとばしっている。しかし、胸中に秘めたものはさらにひどい。もし汝らが(悟りたいならば)我らは既に汝らに諸々のしるしを明らかにしてやった」(コーラン「イムラーン一家」の章第118節)。

さらにもう一つ挙げる。「信ずる者たちよ！不信仰者を指導者にしてはならない。彼らは信者の一員ではないのだ。まさか汝らは、汝らを裁くための明らかな根拠をアッラーに提示したいのではあるまい」(コーラン「女」の章第144節)。

指導者になる者、そして誰が我々の味方あるいは敵なのかを警告するコーランの節は他にも数多くある。

[*Qalam* 1955.4: 37]

この質問が掲載された1955年、イギリス自治領下のマラヤで総選挙が行われた。脱植民地化に向けて、マレー・ムスリムがどのような志向を持つ指導者を選択するのは大きな関心事だったのである。

このことは、マラヤの多民族・多宗教社会のなかで、異教徒(非ムスリム)の政治勢力とどのような関係を持つかという課題でもあった。そのことは、以下の2つの質問に示されている。

#### Q.416(一部省略)

8月に発行された号の中で、戦闘に関する記事において引用されたコーランの節の一部によると、アッラーはイスラム教徒以外を指導者に選ぶことを禁じられた、と解説されているのを私は見つけました。…これからインドネシアで行われる総選挙とマラヤで去る7月27日に行われた総選挙は、イスラム教の観点から法的にどうなるのかについて、説明して頂けることを大いに望みます。両者は異なりますか、あるいは同じですか。

インドネシアはイスラム教徒の国家であり、マラヤもまたイスラム教徒の国家です。ゆえにもし法的に同じと判断されるとしたら、私は1955年7月25日付けの『ウトゥサン・ムラユ』の新聞記事に戸惑いを感じます。その中でムフティ・アブドゥッラーは、ムスリムがムスリムを選出することは独立の達成を阻むとするファトワに「騙された」と述べ、挙句の果てに彼は「禁止ではない」と述べています。もしUMNOと連盟をくんだ非ムスリム候補者を選んだとしても、それは「禁止とはならない」ということです。それどころか、マレー半島の独立を達成するために時勢的また政治的に要求された道だということです。……

#### A.416(一部省略)

イスラム教は国家の政治と切り離すことはできない。よってここでは、次のような注意を喚起することが実に望ましいと考える。すなわち、各々のイスラム教徒が「まことに私の礼拝、私のイバードート、私の生命、

そして私の死はアッラーの御ためにあります」と神の御前で一日5回の証言をした後、アッラーのカリマ[御言葉]を守るために、力、財産、そしてもし必要ならば命を一遍に犠牲にしなければならないということだ。それはアッラーの法を施行できるような国家を樹立することを意味する。なぜなら、アッラーの掟を以て法を定めない者は誰でも、確実に残忍で罪深く、そして不信仰者であるからだ。

上記の説明を補強するため、この事項に関するコーランの節を以下に引用する。

「信ずる者たちよ！汝らの一員ではない者と親密になってはならない。(なぜなら)彼らは常に汝らの上に不幸が降り掛かるよう(努力することを)止めないし、汝らが苦難に遭うことを願っているからだ。まことに彼らの口からは憎しみがほとぼしっている。しかし、彼らの胸の内に秘めているものはさらにひどい。まことに我らは、汝らが悟るならば、既に汝らに諸々のしるしを明らかにしてやった」(コーラン「イムラーン一家」の章第118節)。

「イスラム教徒よ！汝らは彼らに友愛の情を示しているが、彼らは汝らを愛していない。汝らはコーラン(の内容)の全てを信じているが、彼らは汝らに会う時、『私たちは信じている』と(だけ)言う。しかし、汝らと別れた後、彼らは汝らに対して抱く敵意の激しさに指先を噛む」(コーラン「イムラーン一家」の章第119節)。

「信ずる者たちよ！汝らより前に啓典を受けられた民のうち、汝らの宗教を馬鹿にし、あざ笑う者たちを指導者にしてはならない。もし汝らが真の信仰者ならば、アッラーに忠実に従いなさい」(コーラン「食卓」の章第57節)。

「汝らが彼らを好きになるよう、彼らは汝らに誓う。汝らは彼らのことを好こうが、アッラーは罪深い者を嫌い給う」(コーラン「牝牛」の章第96節)。

[*Qalam* 1955.9: 27-28]

#### Q.477

先のラマダン月の夜に、私はあるモスクでコーランを美しく抑揚のある声で読誦しているのを聞きました。そして私はその読誦に心を惹かれました。しかし、私はその読誦されていたコーランの節の意味を理解していません。そこでここにそれを記します。

“Yā ayyuhā alladhīna āmanū lā tattakhidhū al-yahūda wa al-naṣārā aw liyā'u ba'duhum aw li yā'u ba'd. Wa man yatawallahum minkum fainnahum minhum. Inna Allāha lā yahdī al-qawma al-zālimīn” (コー

ラン「食卓」の章第51節)

上記の節の意味と、またそれ以外の意味も教えて頂きたいと思います。コーランを歌うように読誦することを求めるコーランやハディースの説明はありますか。あるいは、コーランを歌うように読誦することを禁じるアッラーの啓示や預言者ムハンマドの文言はありますか。

#### A.477(一部省略)

その節の意味は次の通りである。「信ずる者たちよ。ユダヤ教徒やキリスト教徒を指導者にしてはならない。彼らの同類が(当然)その同類の指導者となるのである。汝らの中で彼らを指導者とする者は誰でも、その者はまことに彼らの同類(となる)。まことに神は悪行の徒を導き給うことはない」。……

歴史上この節が下されたのは、イスラムに対する上述の民族たちの裏切りが原因であった。……通常神は二つの信徒[ユダヤ教徒とキリスト教徒]の言い換えとして「啓典の民」という言葉が使われた。『アル＝マナール』によると、神が上述のことを禁じられた理由はユダヤ教徒とキリスト教徒が預言者ムハンマドとイスラム教を敵視したからであり、現在に至ってもなお彼らはイスラムの興隆を快く思っていない。

[*Qalam* 1957.7: 11]

前者(Q.416)では、華人、インド人政党と連盟を組んだUMNOに対する明確な批判が見て取れる。後者(Q.477)では質問者がコーランを引用している。回答では、エジプトでラシード・リダーらにより発行されたイスラム改革主義の雑誌『アル＝マナール』が引用されており、その政治的スタンスが明示されている。非ムスリムおよび彼らと提携するムスリム政治指導者を拒否するという姿勢は、歴史およびコーランに裏打ちされたものであると主張された。

最後の事例は、そうした政治状況をムスリムの義務としての聖戦(ジハード)にからめた回答である。

#### Q.462

現在インドネシアでは、インドネシア政府と三つの地域、すなわち西ジャワ、スラウェシ、アチェから成るダクルル・イスラムの一派との間に対立が起きています。ここで反乱を起こした人々は武装集団、また別の言い方では悪人という言葉で呼ばれています。簡潔に言えば、報道の中で彼らはあたかも悪人であり、罵られている状況にあります。イスラム教徒として、我々は彼らの行動を罵ってもよいのですか。

#### A.462(一部省略)

イスラム教を信仰する我々は、彼らの行動を悪人の所業あるいは陰謀だと言うのだろうか。血を以て戦い、それは一重に神の命令を果たしているにもかかわらず、一日五回神を崇め、神の命令に従う我々イスラム教徒は彼らのことを悪人と呼ぶのだろうか。アッラーを信仰するイスラム教徒にとって「アッラーの御ために財産と己を賭して戦うムジャーヒド、すなわち己の財産と快楽にもはや愛着を持たず、神の要求を受け入れるアッラーの軍隊としての彼らを尊敬するに違いない。例え他の人々が我々に何と言おうと、我々は手を掲げ彼らに敬意を表さねばならない。たとえ人間が禁止と言おうとも、彼らは勇敢にも血まみれになりながら、神がハラールと仰せになったことを守ろうとするのである。……

我々は彼らのことを罵ってはならず、逆に彼らを尊敬しなければならない。そして可能ならば、彼らの負担と責任を軽減するため、ジハードを戦っている彼らの手助けをしなければならない。大胆にも彼らの戦いを禁じるファトワを出すイスラム教のウラマーは一人もいないと我々は考える。そして願わくはアッラーのカリマを守る戦いにおいて殺された彼らが、以下の神の啓示の中に記されているような人々の集団に含まれんことを。「アッラーの道のために殺された者を、決して死んだと思ってはならない。それどころか(彼らは)アッラーのみもとで扶助を賜って生きているのだ」(コーラン「イムラーン一家」の章第169節)。

[*Qalam* 1957.3: 7]

当時のインドネシアでは、イスラム勢力がイスラム国家の樹立を標榜し、中央政府(スカルノ政権)に対して武装蜂起を行っていた。『カラム』は彼らを支持しており、コーランを引用しつつムスリムに対して闘争の支援を呼びかけた。

イスラムと政治の関係は、島嶼部東南アジアのマラヤ・シンガポール、インドネシアの脱植民地化において主要な課題の一つであった。「千一問」では、現代的な政治課題をコーランにおける初期イスラムの歴史の延長線上で解釈し、イスラム国家の実現に向けた道程を示そうとしたのである。

## 7. おわりに

本論では、「千一問」におけるコーランの引用について紹介した。そこから明らかになるのは以下の点



である。

「千一問」の回答においてコーランが引用されるケースとしては、第一にイスラム教の世界観や宗教実践にかかわるものがある。これは、宗教に関する読者からの質問に答えるというこのコラムが目指す形であるといえよう。こうした引用のされ方をさらに分析していくことで、彼らのイスラム思想の特徴を明らかにできると思われる。そのためには、これに類するイスラム知識人の言説との比較が次の課題となるであろう。

一方で、一見すると宗教とは関係のない質問に対してコーランを典拠にイスラムの立場から回答するという例も見られた。そこでは、西洋的な科学の知識をコーランで説明することでイスラムの立場から解釈したり、同時代の政治をコーランにおけるイスラムの歴史の延長線上としてとらえることでイスラム国家の実現を目指したりした。これは、コーランを利用して西洋的な近代性をイスラムのなかに取り込もうとするイスラム知識人の試みととらえられる。

これは、西洋的な近代性が社会に浸透する過程におけるムスリム社会の葛藤を示している。「千一問」におけるコーランの引用は、東南アジアのムスリム知識人が当時の状況の中でイスラムをどのようにとらえていたかを映し出している。

## 参考文献

- 井筒俊彦1957『コーラン(上)』岩波書店。  
井筒俊彦1958『コーラン(中)』岩波書店。  
井筒俊彦1958『コーラン(下)』岩波書店。  
「資料編『千一問』試訳」2016 坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代Ⅶ——コラム「千一問」にみるマレー・ムスリムの宗教実践』京都大学地域研究統合情報センター、pp. 43-95。  
「資料編『千一問』試訳」2017 坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代Ⅷ——マレー・ムスリムの越境するネットワーク』京都大学東南アジア地域研究研究所、pp. 45-77。  
「資料編『千一問』試訳」2018 坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代Ⅸ——マレー・ムスリムの越境するネットワーク2』京都大学東南アジア地域研究研究所、pp. 51-90。  
「資料編『千一問』試訳」2019 坪井祐司、山本博之編『『カラム』の時代Ⅹ——マレー・イスラム世界における自然と社会』京都大学東南アジア地域研究研究所、pp. 28-67。  
「資料編『千一問』試訳」2020 光成歩、山本博之編『『カラム』の時代Ⅺ——マレー・イスラム世界の女性と近代』京都大学東南アジア地域研究研究所、pp. 75-115。